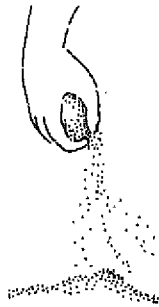


人権作文発表会

- 人権作文学年発表会
- ① 「それぞれの個性を認め合う社会に」 2組
 - ② 「遠く離れた地で起きた差別に目を向ける」 4組
 - ③ 「信頼すること」 4組
 - ④ 「防げる事故」 1組
 - ⑤ 「いじめについて」 3組
 - ⑥ 「差別のない世の中へ」 1組
 - ⑦ 「優しい社会」 3組
 - ⑧ 「科学技術の進歩と戦争」 2組



1年生から、毎年の課題として取り組んできた人権作文の第3回発表会を当初の予定より2週間遅れましたが、先日行いました。今年も各クラス2名の代表が、前に立って自分の声で自分の意見を発表しました。代表者は随分前から、発表用に作文を手直ししたり、何度も何度も読む練習をしたり、家族の方に聞いていただいたりとそれぞれに努力をしておられた。3年間の取り組みを通して、皆さんの作文のテーマが広がり、内容も深まり、表現力も向上しているのがわかります。人権を守るために大切なことは何でしょうか。正しい知識のもとに判断できることはもちろんですが、より重要なのはその判断をもとに行動することです。日々の生活にこそ、そのチャンスはあるはずです。人権作文を書くのはこれで終わりですが、「人権」について考え、「自分の生き方や社会との関わりを考えること」は生きている限り続けなければならないことです。

人権作文発表会を聞いて

今日の人権作文発表会は、すごく色々な事を感じました。「個性」についての作文は、自分の経験を混ぜて発表していたので、その人の考え方に至った経緯がよくわかり、説得力が増したような気がします。共感できる所もあれば、価値観が違うなど感じることも少しありました。それぞれの立場や環境で得た経験を、自分の価値観を基に行動に移した、移していきたいといった内容が多く、自分の意見をしっかり持っているんだなと思いました。人の考え方を知るいい機会になり、自分の考え方や行動を見直すことになりました。作文の構成や語り口もそれぞれ個性が出て良かったと思います。

1組

いじめの問題について共感できることがたくさんありました。私もみんながいじめはダメだと理解しているのになぜいじめはなくなるんだろうと思います。戦争もそうです。頭ではわかっていても行動に移せないということが一番の問題だと思います。イジメだけに限らず、他の問題でも他人事として捉えるのではなく、自分も関係あるんだという意識を持つことが大切なのではないかと考えました。また、考えるだけではなく誰かに話して共感を得たり、実際に行動に移すことで自分自身も様々な問題に寄り添うことができるのだと思います。そして、今日の人権作文を発表した人たちは、自分で考え、発言するという勇気のいる行動ができていてすごいなと感じました。この世の中から、差別、いじめ、戦争がなくなる日が一日でも早く訪れたらいいなと改めて思いました。

2組

どの人の作文も見聞や体験を基に、深く考えられた内容とそれぞれの気持ちが強く込められていて、とても印象に残るものだった。特に印象に残ったのは「ヘルプマーク」の話だ。人権を守るために様々な活動がなされているけれど、周りの人々がしっかりと理解していないと意味がない、というのは確かにその通りだなと思った。自分には関係ない、と思うのではなく人権に関心をもち、できる限り周囲に気を配ることが大切だと感じた。

3組

印象に残ったのは、の「私はヒーローになってやる」という最後の言葉です。いじめの現場で、いじめをしている人をやっつけていじめを止める、これが僕の思っていたヒーロー像でした。しかしの話には、いじめを受け悲しんでいる人のそばにそっといてあげる、これもヒーローではないかというものがありました。の発表のオリンピックはとても注目されるのに、パラリンピックはなぜ注目されないのか、というのに僕も共感しました。

4組